

# コンピュータを活用した保健学習

上柴西小学校（実践・報告者） 清水知子

## 1 単元名 病気の予防 第6学年

## 2 単元の目標

病気は、病原体、からだの抵抗力、生活行動、環境がかかり合って起こることを理解する。

病原体がおもな要因となって起こる病気の予防には、病原体をからだの入れないことや病原体に対する抵抗力を高めることが必要であることを理解する。

生活習慣病など、生活行動がおもな要因となって起こる病気の予防には、栄養の偏りのない食事や口腔の衛生など、望ましい生活習慣を身につけることが必要であること、また、喫煙、飲酒、薬物乱用などの行為は、健康を損なう原因となることを理解する。

## 3 指導計画

- ・病気の起こりかた ----- 1時間
- ・病原体がもとになって起こる病気の予防 ----- 3時間
- ・生活のしかたが関係する病気の予防 ----- 2時間
- ・たばこ酒の害・薬物乱用の害と健康 ----- 2時間

## 4 情報機器活用の意図・情報機器活用の視点

- ・インターネットを活用することで、児童が自ら課題追究する場面を設定することができ、意欲的な調べ学習が展開できる。
- ・インターネットを活用することで、たくさんの情報を短時間で収集でき、実際には見ることのできない写真等も見ることができる。
- ・「発表名人」を使うことで、児童が楽しく意欲的に学習に取り組むことができる。


## 5 本時の学習（8 / 8時間）

### （1）目標

薬物乱用は、健康を損なう原因となることを理解する。

自分の健康は自分で守り、健康によい生活行動を自ら実践できるようにする。

### （2）展開

学 習 活 動	指導上の留意点 評価
1 薬物の概要について知る。 	児童に持参させた薬の説明書をよく見せ、そこには医薬品の効能、効果、用法、用量などについて書かれていることに気づかせるようにする。 薬物乱用とは、薬を医療の目的以外で使ったり、



## 2 課題をつかむ。

シンナーを乱用すると、どのような害があるのか、調べてみよう。

シンナーを乱用すると、脳が小さくなって精神に影響を及ぼすんだね。



法律で所持、譲渡、使用等が厳しく禁止、あるいは制限されている薬物（覚醒剤、大麻、シンナーなど）を乱用することであることを知らせる。児童の身近なところで使われているシンナーをとりあげ、学習を進めていくようにする。インターネットを活用し、課題について調べるようにする。

検索のしかたについて個別指導をする。

課題について、意欲的に調べようとしている。

(関)



こんなふうに歯がぼろぼろになってしまうんだね。こわいね。

## 3 調べたことを発表し合う。

- ・やる気低下
- ・判断力低下
- ・幻覚症状
- ・運動能力低下

調べたことを発表し合い、薬物乱用と健康への影響についてまとめる。

薬物乱用は、法律で禁止されていることを知らせる。

薬物乱用と健康への影響についてわかる。(知)

## 4 友達などから、シンナーを誘われたらどうするか考える。



発表名人を使って、自分の考えを書くようにさせる。(簡単なワークシートをつくっておき、2枚めに児童が自分で考えたことをかきこめるようにしておく。)

健康によい生活行動を自ら実践できるように真剣に考えるようにする。

薬物の害を知り、誘いを受けたときの意志決定や行動のとりかたについて、考えることができる。(思)

## 6 成果と課題

コンピュータを使うことにより、児童は課題解決に向けて意欲的に学習することができた。また、インターネットを活用したことで、比較的簡単にたくさんの情報を得ることができた。しかし、コンピュータの操作技術に個人差があり、検索に時間がかかってしまった児童もいたのでリンク集などをつくっておくと、学習をより効果的に進めることができると思った。